

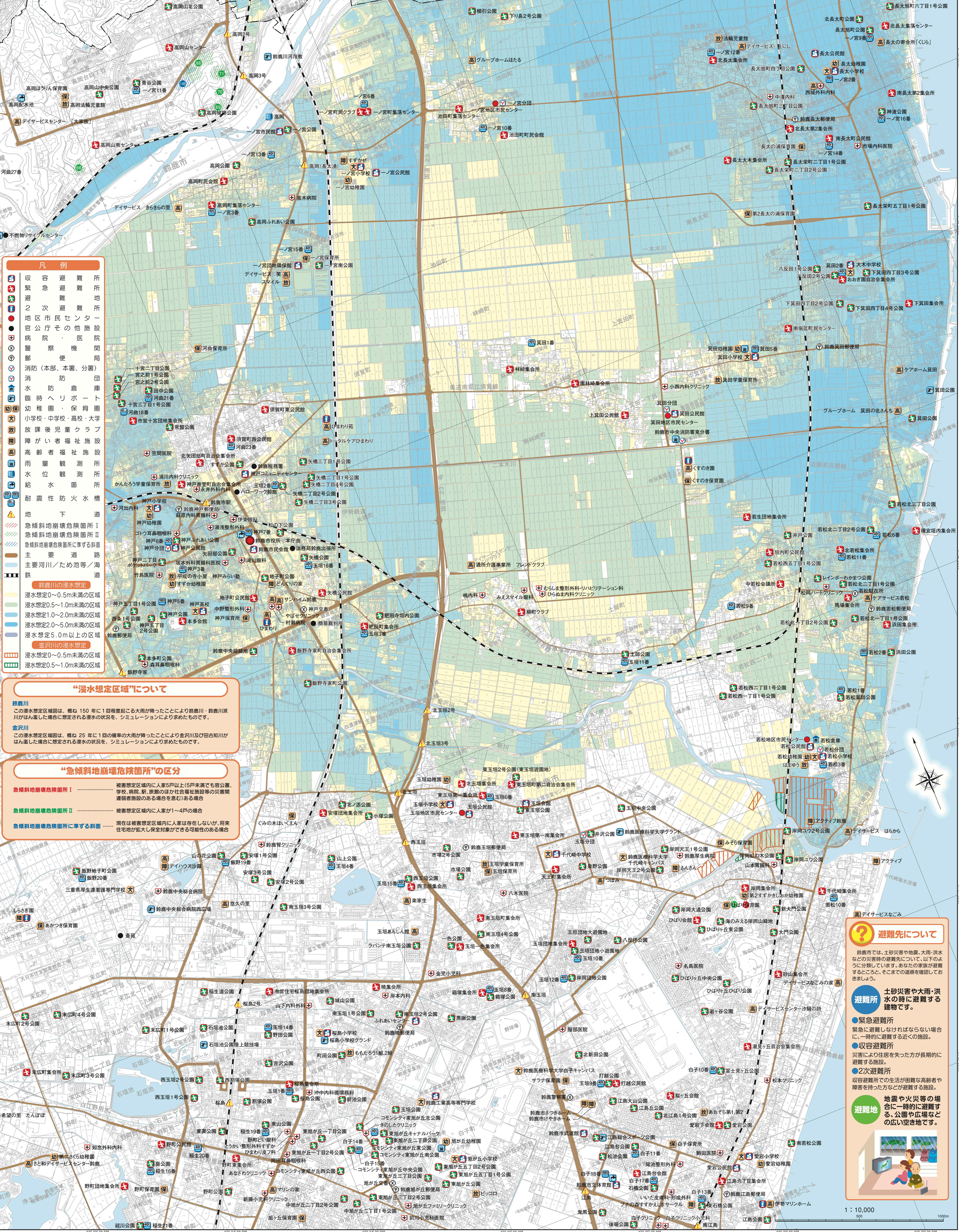
河川浸水による水深の目安

歩ける水の深さ
男性は70cm、女性は50cmくらいが限度です。水深が腰以上になると無理は禁物です。高所で救援を待ちましょう。

0.5m 歩ける水の深さ
1.0m 大人の腰がつかかる程度
2.0m 1階の天井付近までつかかる程度
5.0m 2階の天井付近までつかかる程度

防災マップ

A: 一ノ宮・箕田 玉垣・若松



- ### 凡例
- 取寄避難所
 - 緊急避難所
 - 避難地
 - 2次避難所
 - 地区市民センター
 - 官公庁その他施設
 - 病院
 - 警察機関
 - 郵便局
 - 消防(本部、本署、分署)
 - 消防団
 - 水防倉庫
 - 臨時ヘリポート
 - 幼稚園・保育園
 - 小学校・中学校・高校・大学
 - 放課後児童クラブ
 - 障がい者福祉施設
 - 高齢者福祉施設
 - 雨量観測所
 - 水位観測所
 - 給水箇所
 - 耐震性防火水槽
 - 地下道
 - 急傾斜地崩壊危険箇所Ⅰ
 - 急傾斜地崩壊危険箇所Ⅱ
 - 急傾斜地崩壊危険箇所に至る斜面
 - 主要道路
 - 主要河川/ため池等/海道
 - 鉄
 - 鈴鹿川の浸水想定
 - 浸水想定0~0.5m未満の区域
 - 浸水想定0.5~1.0m未満の区域
 - 浸水想定1.0~2.0m未満の区域
 - 浸水想定2.0~5.0m未満の区域
 - 浸水想定5.0m以上の区域
 - 金沢川の浸水想定
 - 浸水想定0~0.5m未満の区域
 - 浸水想定0.5~1.0m未満の区域

“浸水想定区域”について

鈴鹿川
この浸水想定区域は、概ね150年に1回の程度起こる大雨がもたらしたことにより鈴鹿川・鈴鹿川派川が氾濫した場合に想定される浸水の状況を、シミュレーションにより求めたものです。

金沢川
この浸水想定区域は、概ね25年に1回の程度の大雨がもたらしたことにより金沢川及び田古川が氾濫した場合に想定される浸水の状況を、シミュレーションにより求めたものです。

“急傾斜地崩壊危険箇所”の区分

急傾斜地崩壊危険箇所Ⅰ
被害想定区域内に人家5戸以上(5戸未満でも官公署、学校、病院、駅、旅館のほか社会福祉施設等の災害関連施設のある場合を含む)がある場合

急傾斜地崩壊危険箇所Ⅱ
被害想定区域内に人家1~4戸の場合

急傾斜地崩壊危険箇所に至る斜面
現在は被害想定区域内に人家は存在しないが、将来宅地が拡大し被害対象とされる可能性がある場合

避難先について

鈴鹿市では、土砂災害や地震、大雨・洪水などの災害時の避難先について、以下のように分類しています。あなたの家族が避難するところと、そこの避難を確認しておきましょう。

- 避難所**
土砂災害や大雨・洪水の時に避難する建物です。
- 緊急避難所**
緊急に避難しなければならない場合に、一時的に避難する近くの施設。
- 取寄避難所**
災害により住居を失った方が長期的に避難する施設。
- 2次避難所**
取寄避難所での生活が困難な高齢者や障害者を持った方などの避難する施設。
- 避難地**
地震や火災等の場合に一時的に避難する、公園や広場などの広い空き地など。